

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：35507

学校名：平岡緑中学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	<p>【全国平均と同程度もしくは上回った種目】 握力 上体起こし 長座体前屈</p> <p>【全国平均を下回っている種目】 反復横跳び 20m シャトルラン 50m 走 ハンドボール投げ</p>	「敏捷性」、「走力」、「巧緻性」については男女とも課題が見られる。特に女子においては全国平均との差が大きく、運動の実践意欲や実際の運動習慣や機会に関しての二極化が見られる。
体力・運動能力 <女子>	<p>【全国平均と同程度もしくは上回った種目】 20m シャトルラン</p> <p>【全国平均を下回り、特に差が特に大きい種目】 上体起こし 反復横跳び 50m 走 ハンドボール投げ</p>	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<p>【運動やスポーツをすることが好き(やや好きも含む)】 (全国) 男子：91.1% 女子：73.0% (学校) 男子：96.8% 女子：76.0%</p> <p>運動をすることに肯定的な意識をもっている生徒が多い。特に男女とも「好き」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。</p> <p>【中学校を卒業した後も、自主的に運動したいと思いませんか】『思う(やや思う)』と回答した生徒の割合 (全国) 男子：87.3% 女子：76.0% (学校) 男子：93.1% 女子：79.6%</p> <p>運動の習慣化を図ろうとする意識の高まりが見られる。特に「思う」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。</p>	運動系の部活動や習い事をしている生徒と、そうではない生徒との日常の運動習慣の二極化が大きい。運動に対して肯定的な意識と実践意欲をもっている生徒が多いので、運動時間や運動環境の確保を図っていくことが必要である。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○体育授業時の補強運動の実践。 ○生徒一人一人が、個に応じた目標を設定し、解決していくための手立てを講じる「課題探究的な学習」を推進していく。 ○生成 AI や ICT の効果的な活用を図り、動き方のポイントや戦術などを客観的に分析するための多角的な視点と、一人一人が課題意識をもって取り組める授業環境の整備を行う。 ○青年期に見られる心や体の問題の身近な事例を取り上げ、自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昼休みのグラウンド・体育館開放を実施し、体育授業以外に学校で運動に親しむ環境を設定する。 ○体育的行事(大運動会)を通じて、多様な運動機会環境を設定し、スポーツに親しむ場の整備を図る。 ○スマートフォンやゲーム機器の使用の仕方など、基本的な生活習慣の定着に関わる指導を実施する。 ○体育授業時において、単元の導入時に興味・関心を高める教材・教具を工夫する。 ○ICT 端末を活用した家庭でのトレーニングや、体ほぐしの運動(ストレッチなど)を推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭による栄養指導と学校給食を通じた食育指導を実施する。 ○「保健だより」を通して、自己の体調管理ができるように正しい知識を身に付けさせるとともに、健康の保持増進に対する意識を高める。 ○パートナー校との小中連携を図る情報交換を密に行い、発達段階における健康に関する指導の成果と課題を共有する。 ○教育相談機能(心の面)を充実させる ○ICT 端末使用における情報モラル(情報活用能力及び人間関係形成能力)に関わる指導の充実を図る。
---------------	---	--	---

家庭・地域との連携・協働

- 学年 PTA などの機会を通して、生活面、健康面の課題を保護者と共有する。
- 体育的行事を公共スポーツ施設で実施することでの熱中症対策と併せて、生徒の運動の様子を安心して参観していただく場の設定を図る。